

# みずば

第5号

発行日 平成19年3月19日

発行 板倉町教育委員会 文化財保護係

T E L 0276 (82) 1111 内157

## 板倉らしい風景

先人たちの姿が見える風景

「まつり」は、それがいつの日から、どんな理由で執り行われるようになったのか、明らかでないものが少なくありません。そして何十年、いや何百年と伝えられてきた「まつり」は、時代の流れとともに大きく変わり、あるいは途絶えてしまうことすらある。そのような中で、復活され、存続されていく「まつり」があります。そこには、言葉では語れない地元の人々の熱い思いを感じずにはいられません。



増田 清美



### どんどん焼き

今から20年ぐらい前から、町内各地でまた行われるようになったものです。第24行政区は、現在、谷田川の河川敷で行っています。

### 茅の輪流し

その昔、雷神社の茅の輪は、夏越が終ると、利根川へ流していました。雷神様の龍が昇天する日です。しかし、いつの日か流せなくなりました。茅の輪もいつしか作られなくなりましたが、ふたたび平成15年に総代たちの手によってマコモを刈り、乾かして、作り上げられるようになったものです。この写真は、約20数年ぶりに、谷田川で流すことにした時のものです。回収のための綱をつけて。



小暮 新八



教育委員会

### 火番小屋 町指定重要無形文化財

藁を一束づつ手に、三々五々、下新田の人たちが、愛宕神社境内に集まってきます。小屋・半鐘・水おけ・はしごとそれぞれが手際よく、作っていきます。昭和10年頃、一度途絶えたそうですが、今からおよそ30年前に復活し、今に伝えています。



藤ノ木橋より蛭田橋までの谷田川堤（右岸）にヤマザクラが植栽されている。その数96本。一般的に「桜」と言えばソメイヨシノ種をさすが、ヤマザクラとは珍しい。しかも何種類か植えられていて、一寸地味な花だが、それぞれ異なった花を咲かせ、趣がある。そして年々艶を増している感じがする。樹齢50年と言われるソメイヨシノよりもずっと長命とのことなので、将来が楽しみだ。ちなみに年間を通しての私の散歩コースである。

(平成18年 田嶋 弘)

田嶋 弘

“広大な空” 見ているだけで大きな存在に包まれている安心感が味わえる。

木の葉の間をぬって現れる朝日、オレンジ色から青に変化するグラデーションが何とも言えない。昼は刻々と変化する雲の動きに見飽きることはない。なかでも一番好きなのは日没時、朝とは違い、ピンクからブルーへの優しい色合いのグラデーションと化した空。それぞれが山のシルエットとその前に広がる田園風景にマッチし魅了させられる。星空も好き。板倉の空の景観は私の中の宝ものである。(朝日野在住8年 蔵川 房恵)



蔵川 房恵



早春の谷田川 飯塚 英夫

#### 揚舟ツアー

大水の時の用心船「揚舟」を軒から下ろしたのは、平成12年、国民文化祭の前年の夏でした。はじめての水辺からの景観に酔いしれたものです。先人の知恵を見直そうと、はじめたものですが、今では観光事業として好評を博しています。



塩田 裕



飯塚 英夫

雪の谷田川